

平成11年3月期 中間決算短信

店

平成10年11月13日

会社名

株式会社 幸楽苑

(登録銘柄)

コード番号 7554)

問い合わせ先

取締役 経営企画室長

堀井 完訓

TEL

0249-43-3351

中間決算取締役会開催日 平成10年11月13日

中間配当制度の有無：有・無

中間配当支払開始日 平成一年一月一日

1. 10年9月中間期の業績(平成10年4月1日～平成10年9月30日)

(1) 経営成績

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	対前年中間期 増減率	営業利益	対前年中間期 増減率	経常利益	対前年中間期 増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
10年9月中間期	3,239	(12.9)	216	(△ 1.7)	225	(16.6)
9年9月中間期	2,870	(20.6)	220	(12.3)	193	(△ 5.1)
10年3月期	5,962		483		471	

	中間(当期) 純利益	対前年中間期 増減率	1株当たり 中間(当期)純利益		会計処理基準
	百万円	%	円	銭	
10年9月中間期	94	(4.9)	21	66	中間財務諸表作成基準
9年9月中間期	90	(1.3)	21	91	中間財務諸表作成基準
10年3月期	216		50	86	

(注) 1. 期中平均株式数

10年9月中間期	4,383,768株
9年9月中間期	4,131,309株
10年3月期	4,257,193株

2. 会計処理の方法の変更 無

(2) 配当状況

	1株当たり 中間配当金		1株当たり 年間配当金	
	円	銭	円	銭
10年9月中間期	0	00	—	—
9年9月中間期	0	00	—	—
10年3月 期	—	—	15	00

(3) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
10年9月中間期	4,024	2,043	50.8	466	08
9年9月中間期	3,723	1,906	51.2	435	00
10年3月 期	3,907	2,032	52.0	463	74

(注) 1. 期末発行株式数 { 10年9月中間期 4,383,768株
9年9月中間期 4,383,768株
10年3月 期 4,383,768株

2. 中間期末の有価証券の評価損益 0 百万円
3. 中間期末のデリバティブ取引の評価損益 - 百万円

2. 11年3月期の業績予想(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

2. 11年3月期の業績予想(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金			
				期 末		1株当たり	
	百万円	百万円	百万円	円	銭	円	銭
11年3月期	6,800	540	236	10	0	10	0

(参考) 1株当たり予想当期純利益 53円83銭

(添付資料)

当中間期及び通気の業績の概況

当上半期におけるわが国の経済は、アジアの経済危機に始まり、日本を巻き込んだ世界同時不況の様相を呈してまいりました。民間需要とりわけ個人消費の落ち込み、更には設備投資の不振が続くなか、相次ぐ大型倒産、雇用不安に加えて金融システム不安が景気低迷に拍車をかけ、厳しい状況で推移いたしました。

外食産業におきましては、消費マインドの冷え込み及び異常気象による天候不順の影響等により、既存店においては売上高、客数が大幅に落ち込みました。また新規の出店及び低価格化の進展により業種・業態を越えた食をめぐる競争は一段と厳しさを増し、経営を取り巻く環境は予断を許さない状況となりました。

このような状況の中で、当社は経営全般にわたりお客様のニーズを反映した価値観のある商品の提供、サービスの向上、清潔な店づくりを推進し、競争力の強化を図ってまいりました。また、拡大路線の一環として新業態とんかつ専門店(店舗名「とんからりん」)の分野へも進出いたしました。

商品面につきましては、「きでん」タイプメニューに冷し中華など3品目を追加し販売を開始いたしました。新業態の「とんからりん」は、味、価格、品質を重視した商品構成で好評を得ており、好調のうちに推移いたしました。

店舗展開につきましては、新規に直営店「会津っぼ」2店舗、「きでん」1店舗(高崎市)、「とんからりん」1店舗(郡山市)の4店舗を出店いたしました。地域別には新商勢圏の群馬県への2店舗、茨城県、福島県に各1店舗出店いたしました。

また、直営店のスクラップ・アンド・ビルドを福島県で1店舗(白河店)実施いたしました。このほか「会津っぽ」タイプから「きでん」タイプへ12店舗を積極的に転換し、売上高、客数増に努め、効率的な店舗網の充実を図りました。

これにより当中間期末の店舗数は、直営店68店舗、フランチャイズ加盟店16店舗の合計店舗数84店舗となりました。業態別には、「会津っぽ」67店舗、「きでん」16店舗、「とんからりん」1店舗となりました。

生産設備関連では、品質安定と店舗数の増加に対応するため、野菜加工及び野菜洗浄設備を導入いたしました。

この結果、当上半期の売上高は32億39百万円(前年同期比12.9%増)となり、利益面では経常利益が2億25百万円(前年同期比16.6%増)となり、中間純利益は94百万円(前年同期比4.9%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、金融システム危機等に伴う景気低迷は長引くことが予想され、企業活動、個人消費の減退が一段と進み、より厳しくなるものと予測されます。

外食産業におきましては、新規出店競争の激化、消費者ニーズの変化、業界を越えた企業間競争の影響などにより経営環境はますます厳しくなり、また企業間格差が広がるものと予測されます。

当社といたしましては、こうした状況を踏まえて、今後ともお客様の立場で、より高品質で低価格の商品を良質なサービスにより提供し、顧客満足度の高い、魅力ある企業づくりに邁進してまいります。さらに店舗展開につきましては、出店コストの低減を図りつつ、積極的に新商勢圏の開拓及び集中出店に取り組んでまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高68億円(前年同期比14.1%増)、経常利益5億40百万円(前年同期比14.6%増)、当期純利益2億36百万円(前年同期比9.3%増)を見込んでおります。